

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【公表番号】特表2004-506036(P2004-506036A)

【公表日】平成16年2月26日(2004.2.26)

【年通号数】公開・登録公報2004-008

【出願番号】特願2002-519411(P2002-519411)

【国際特許分類】

C 07 C 303/06 (2006.01)

C 07 C 15/107 (2006.01)

C 07 C 303/32 (2006.01)

C 07 C 309/31 (2006.01)

C 11 D 1/22 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 C 303/06

C 07 C 15/107

C 07 C 303/32

C 07 C 309/31

C 11 D 1/22

C 07 B 61/00 300

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月28日(2008.2.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】アルキルアリールスルホネートを製造する方法において、

a) C₄-オレフィン混合物を、2-ペンテンおよび/または3-ヘキセンを含有するオレフィン混合物の製造のための複分解触媒上で反応させ、場合により2-ペンテンおよび/または3-ヘキセンを取り出す、

b) 工程a)で得られた2-ペンテンおよび/または3-ヘキセンを、二量体化触媒上で二量体化し、C₁₀~C₁₂-オレフィンを有する混合物を得、場合によりC₁₀~C₁₂-オレフィンを取り出す、

c) 工程b)で得られたC₁₀~C₁₂-オレフィン混合物をアルキル化触媒の存在下に芳香族炭化水素と反応させ、アルキル芳香族化合物を製造し、

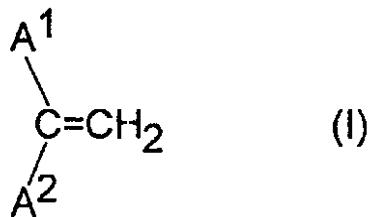
d) 工程c)で得られたアルキル芳香族化合物をスルホン化し、中和して、アルキルアリールスルホネートを得る、

ことから成ることを特徴とする、アルキルアリールスルホネートの製法。

【請求項2】工程a)の複分解触媒を、元素の周期表の遷移金属群VIB、VIIbまたはVIIICの化合物から選択することを特徴とする、請求項1に記載の方法。

【請求項3】工程b)において、元素の周期表の遷移群VIIICから選択される少なくとも1種の元素を含有する二量体化触媒を使用し、この触媒の組成および反応条件を、式I:

【化1】



[式中、

A¹ および A² は、脂肪族炭化水素基である]の構造要素（ビニリデン基）を有する化合物を 10 質量 % を下回って含有する二量体混合物が得られるように選択することを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】 工程 b) で得られるオレフィンが 25 質量 % を下回る非分枝オレフィンの割合を有することを特徴とする、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】 工程 b) で得られるオレフィンの少なくとも 80 % が、1 つの分枝を有するかまたは主鎖の鎖長さの 1 / 4 ~ 3 / 4 、有利には 1 / 3 ~ 2 / 3 の範囲で隣接した炭素原子に 2 つの分枝を有することを特徴とする、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】 工程 c) において、アルキル化触媒を使用して、アルキル基中に H / C の係数が 1 である 1 ~ 3 個の炭素原子を有するアルキル芳香族化合物を誘導することを特徴とする、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】 請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項に記載の方法で得られる中間体としてのアルキルアリール。

【請求項 8】 請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項に記載の方法により得られるアルキルアリールスルホネート。

【請求項 9】 常用の成分に加えて、請求項 8 に記載のアルキルアリールスルホネートを含有する洗剤または清浄剤。